

ピリミカーブに係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）  
 についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 平成26年1月21日～平成26年2月19日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1通
4. コメントの概要及びそれに対する食品安全委員会の回答

意見・情報の概要※	食品安全委員会の回答
<p>【意見1】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ADI 値は妥当です。</li> <li>2. 畜産物とりわけ乳、卵におけるの残留量が極めて少ないことは国民、乳幼児の健康上、良いことでしょう。</li> <li>3. しかし、遺伝毒性試験において、親化合物のみならず分解物までもマウスリンフォーマ TK 試験で陽性にも拘わらず、発癌との関連性はないと断言したのは、結論のいきすぎでしょう。当遺伝毒性試験は発癌性の予測において、極めて高い確率性を持つものです。諸遺伝毒性の長い長い研究成果を否定する判断を早急にするのではなく、諸長期毒性試験において、発癌を示す用量よりもはるかに極めて少ない量は、科学的に安全で、しかも人への影響はないといえると、書き換えるべきです</li> </ol>	<p>【回答1】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ～2. について 御意見ありがとうございました。</li> <li>3. について 原体及び代謝物のマウスリンフォーマTK試験において陽性の結果が得られておりますが、食品安全委員会では、本反応が弱い反応であったことに加え、細胞毒性がかなり強く認められる用量のみでの陽性反応であり、偽陽性が疑われる試験結果であること、復帰突然変異試験及び染色体異常試験並びに<i>in vivo</i> で実施された試験においては全て陰性であることから、この陽性結果について特段懸念する必要はないと判断しました。なお、評価の参照とした2004年のJMPR評価書においても、マウスリンフォーマTK試験の陽性結果について、重大な懸念とは判断されておられません。 以上のことから、生体にとって問題となる遺伝毒性はないものと判断いたしました。</li> </ol>

※頂いた意見・情報をそのまま掲載しています。